

広義のホームレス実態調査 について

実態調査の現状について①

1. ホームレスに関する調査

①ホームレス概数調査（直近の概要は2ページ）

- ・実施時期：毎年1月（3～4月に公表）
- ・調査内容：「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として日常生活を営んでいる者」の数
- ・調査方法：全市区町村において目視により調査

②ホームレスの実態に関する全国調査【総務省承認統計】（直近の概要は3ページ）

- ・実施時期：概ね5年に1度実施（これまで平成15年1月、平成19年1月に実施）
- ・調査内容：「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として日常生活を営んでいる者」の生活実態^(注)

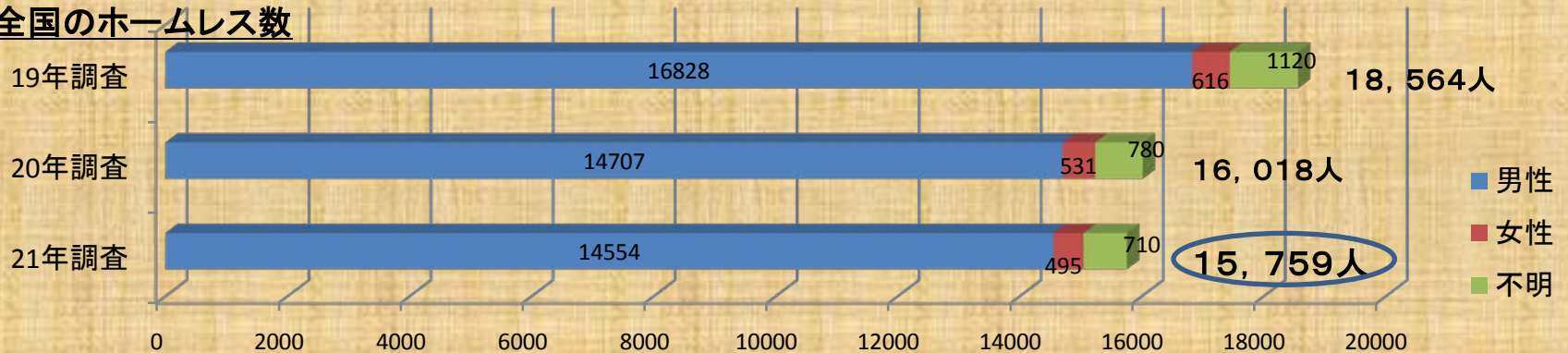
(注)生活場所、路上生活の期間、仕事と収入の状況、路上生活までのいきさつ、健康状態、福祉制度の理解度、自立についての考え等

- ・調査方法：約2,000人を対象に面接により調査。

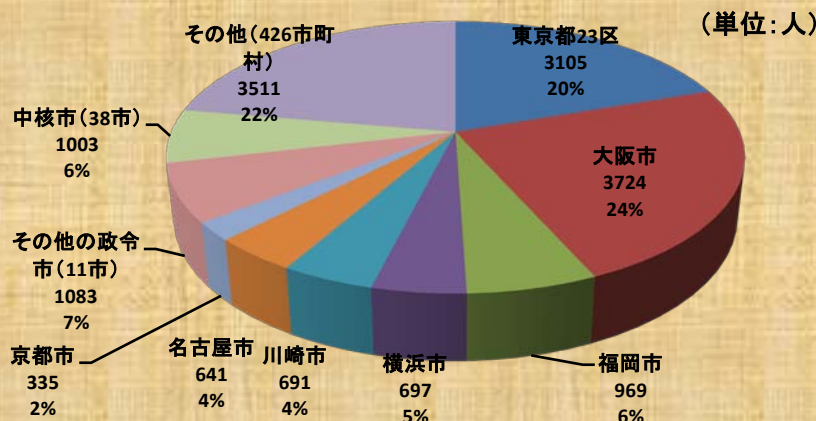
ホームレス概数調査（平成21年）の概要

- 平成21年調査においてホームレスが確認された自治体は、全1,804市区町村のうち504市区町村。
- 全国のホームレス数は15,759人。ここ数年、減少が続いている。
- ホームレスが最も多い地域は大阪市で3,724人（全体の約24%）、続いて東京都23区で3,105人（全体の約20%）、福岡市（969人）、横浜市（697人）、川崎市（691人）、名古屋市（641人）、京都市（335人）となっている。
- 起居場所別については、都市公園、河川が多いが、これらの場所ではここ数年、減少がみられる。

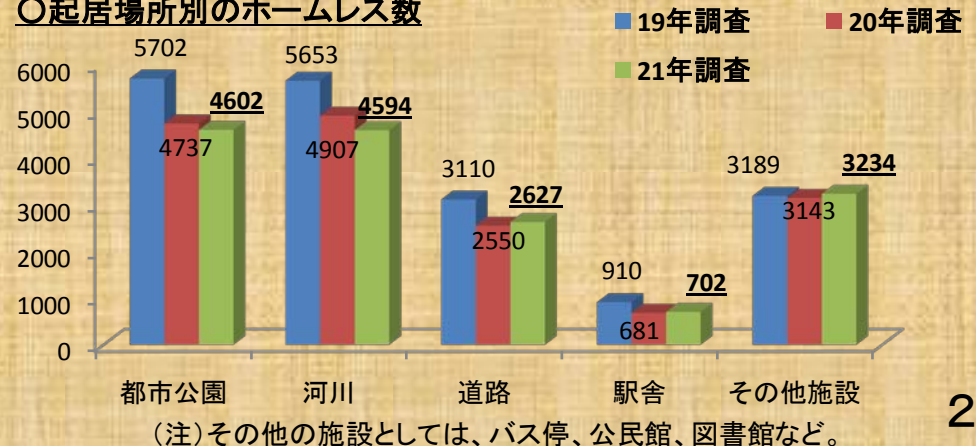
○全国のホームレス数



○全国におけるホームレスの分布状況



○起居場所別のホームレス数



ホームレスの実態に関する全国調査（平成19年）の概要①

◎ 約2,000人を対象に面接による生活実態を調査。

1. 年齢の状況

- 平均年齢 57.5歳
- 年齢階層
 - ・ 40～49歳 10.6%
 - ・ 50～54歳 15.9%
 - ・ 55～59歳 26.8%
 - ・ 60～64歳 21.2%

2. 路上生活を始めた理由

(複数回答)

- ・ 仕事が減った、出なくなった 31.5%
- ・ 倒産・失業 29.0%
- ・ 病気・けが・高齢で仕事ができなくなった 22.0%
- ・ 人間関係がうまくいなくて、仕事を辞めた 15.6%
- ・ アパート等の家賃が払えなくなった 13.3%

3. 路上生活の期間

- ・ 10年以上 15.6%
- ・ 5年以上10年未満 25.8%
- ・ 3年以上5年未満 18.9%
- ・ 1年以上3年未満 16.8%

4. 福祉制度

- ・ 巡回相談員に会ったことがある者 62.3% → 会ったことがあり相談した者 35.9%
- ・ シェルターを知っている者 61.9% → 知っており利用したことがある者 13.1%
- ・ 自立支援センターを知っている者 66.3% → 知っており利用したことがある者 9.1%
- ・ 生活保護を受給したことのある者 24.3%

5. 仕事と生活の状況

- 仕事をしている者は70.4%
→ 主な内訳は「廃品回収」が75.5%と最も多い。
- 仕事による収入月額
 - ・ 1～3万円未満 29.8% ・ 5～10万円未満 21.5%
 - ・ 3～5万円未満 25.1% ・ 10万円以上 9.1%→ 仕事をしている方の平均収入は約4万円。
- ここ3ヶ月における仕事以外の収入の有無
 - ・ ある 13.1% ・ ない 86.9%
- あると答えた方の具体的内容(*複数回答)
 - ・ 年金 33.3% ・ 家族からの仕送り 8.0%
 - ・ 友人・知人からの支援 22.3% ・ その他 39.0%

6. 自立について

- 今後どのような生活を望むか
 - ・ 「きちんと就職して働きたい」という方 35.9%
 - ・ 「今のままでいい」という方 18.4%
- 求職活動状況
 - ・ 「求職活動をしている」方 19.6%
 - ・ 「今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」という方 59.8%

ホームレスの実態に関する全国調査（平成19年）の概要②

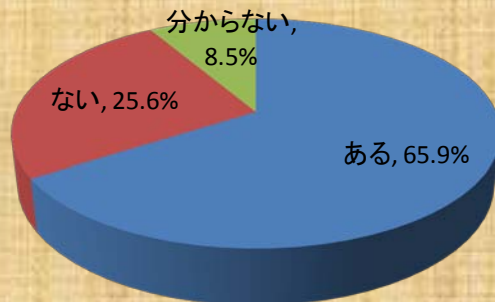
年金に係る主な調査結果について

○公的年金の保険料の納付について、納付したことがあると回答された方は、全体の65.9%、納付していた公的年金の種類は厚生年金が67.4%で最も多くなっている。

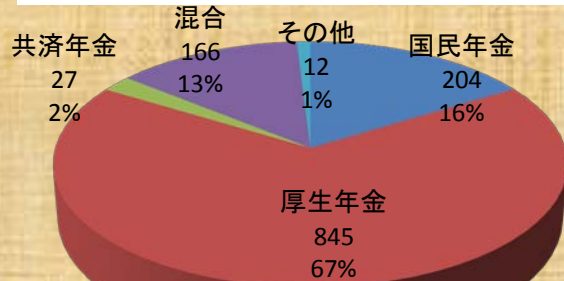
○保険料納付年数については、「10～15年未満」が21.1%で最も多く、次いで、「20～25年未満」（16.8%）、「5～10年未満」（16.5%）となっている。

○直近3か月間の仕事以外での収入について、「ある」と回答した方の約33%（88人）が、具体的内容として「年金」と回答している。

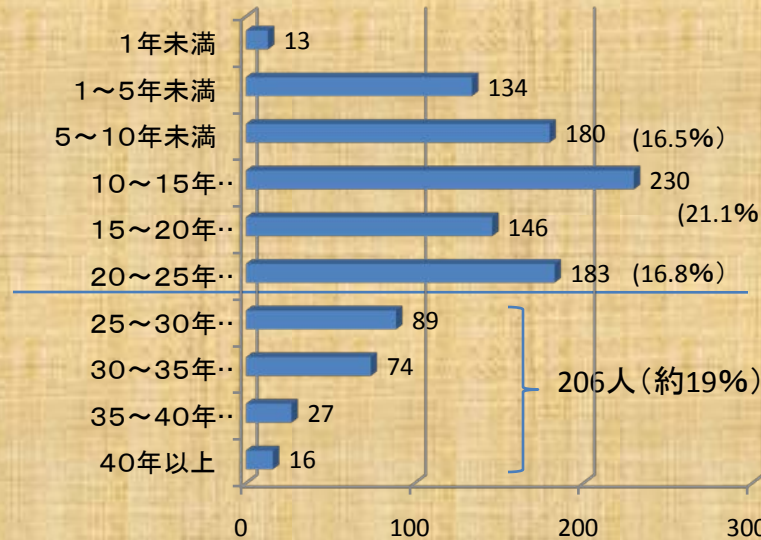
①公的年金の保険料納付の有無



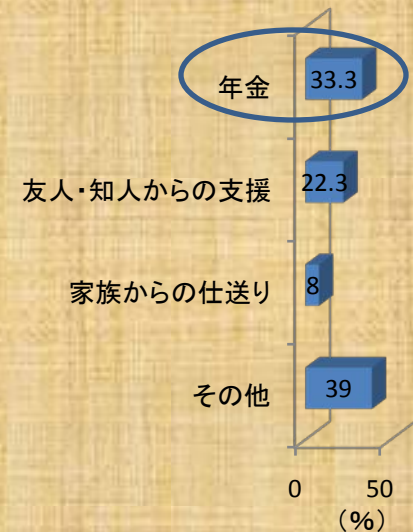
②保険料を納付していた公的年金の種類



③保険料納付年数
(回答者:1092人)



④直近3か月の仕事以外での収入
(複数回答)



実態調査の現状について②

2. ホームレス以外の実態調査(うちネットカフェオールナイト利用者の現状)

○住居喪失不安定就労者等の実態に関する調査報告【厚労省委託調査】

- ・実施時期 : 平成19年6月～7月 (平成19年8月公表)
- ・調査目的 : インターネットカフェ・漫画喫茶等に寝泊まりする不安定就労者の実態を労働政策の観点から明らかにすること。
- ・調査内容 : インターネットカフェ・漫画喫茶等の夜間利用者(オールナイト利用者)の概数、就業形態、住居喪失の状況等
- ・調査方法 : インターネットカフェ・漫画喫茶等全店舗(約3,000店舗)の店長、店員等に対して、平均的なオールナイト利用者概数、常連者概数を電話により調査。^(注1) (注1)有効回答1173店舗。
有効回答から146店舗を抽出しオールナイト利用者に対して、店内でのアンケート調査^(注2)を実施。 (注2)回収調査サンプル数は1,644人
東京23区内、大阪市内での利用者について個別面接調査を実施。^(注3)
(注3)回収サンプル数は東京300人、大阪62人。

* 調査結果は次ページ参照

住居喪失不安定就労者等の実態に関する調査の概要

1. 概数調査

○ ネットカフェ等のオールナイト利用者の数と利用理由をアンケート調査

・ 利用理由

「パソコン等を利用するため」……………52.8%

「仕事・遊び等で遅くなり、帰宅がおっくう」…27.8%

「住居がなく寝泊まりするために利用」……………7.8%



住居喪失者(全国推定数 **約5,400人**)

○ 年齢構成:20歳代と50歳代に2つの山が見られた。

非正規労働者:約2,700人

短期派遣労働者:約600人

短期直用労働者:約1,200人など

正社員:約 300人

失業者:約1,300人

(仕事をしていない(探している))

無業者:約 900人

(仕事をしていない(探していない))

2. 生活・就業実態調査

○ 生活・就業実態(東京300人、大阪62人)

・ 住居喪失理由(東京)

「仕事を辞めて家賃が払えなくなったため」……………32.6%

「仕事を辞めて寮などを出たため」……………20.1%

「家族との関係が悪く、住居を出たため」……………13.8%

・ 住居確保に当たっての問題(東京)

「アパート等の入居初期費用が貯蓄できない」……………66.1%

「家賃を払い続ける安定収入なし」……………37.9%

「必要な保証人を確保できない」……………31.3%

・ 求職活動に当たっての問題(東京)

「日払いでないと生活費が続かない」……………40.2%

(=月給日までの生活費がないので常用就職困難)

「履歴書に書く住所がない」……………30.4%